



令和5年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人健光園	理事長	古石 隆光	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源として子どもからお年寄りまで世代を越えて交流できる場。 ・住み慣れたご自宅でお一人おひとりの状態に合わせて通い、泊まり、訪問を組み合わせるにより馴染みの職員、地域とともに安心ある生活を過ごして頂ける。
事業所名	藤城の家	管理者	小川 友恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	5人	1人	0人	1人	(1)人	6人	0人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	引き続き、レクリエーションやイベントなどの充実を図り、その活動を地域へ発信することを継続する。	新しいイベントの取組みとして、小規模夏祭りや運動会の開催などに取り組むことができた。	藤城の家の活動など、何かイベントことやお知らせがあれば町内の掲示板なども活用してみては。	引き続き、レクリエーションやイベントなどの充実を図り、地域へ発信する機会を増やしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	定期的な換気や消毒の徹底、パーテーションの利用などを継続し、感染防止対策に努める。その中でも、居心地のよい空間づくりをしていく。	定期的な換気や消毒、パーテーションの利用など感染防止対策を継続できた。また、環境整理として、新しい加湿器の購入なども行った。	感染対策など行っていることが分かりました。	定期的な換気や消毒の徹底、パーテーションの利用などの感染防止対策を継続していく。その中でも、居心地のよい空間づくりをしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	引き続き、基本的な挨拶を大事にしていくことや、全職員が地域との関わっていると実感を持ち援助を続けていく。	挨拶を基本に、行事や地域活動を通じ、徐々にボランティアや地域の方々顔を合わせる機会は増えてきている。	以前は、よく藤城の家の地域交流室を貸してもらって教室などを行っていた。また使えるようになれば。	徐々に再開している地域活動に、全職員が意識的に関わっていけるように参加をしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	藤城学区始め、他利用者が居住の学区の地域資源の勉強会を開催し、地域理解を深めていく。	本年度は、桃山学区の地域資源の勉強会を職員会議の中で開催することができた。	勉強会で子ども達の安心安全マップを使用しているとのことなので、また持ってきます。	藤城学区、桃山学区に続き藤森学区の勉強会を開催することにより、地域理解を深めていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議が開催できない場合にも書面での報告を継続する。家族やご利用者にも会議の内容を送るなどを継続して行う。	運営推進会議に小規模の職員が継続して出席し、活動報告を行うことができた。会議報告の送付なども継続して行っている。	また、何か一緒にできることがあれば、声をかけてもらえれば。	運営推進会議の中で活動報告を継続する。まだ運営推進会議に出席したことがない職員が会議に出席できるようにしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	いつ起こるか分からない災害に対して、研修や訓練を継続し、職員全員で備えを行っていく。他部署の備蓄場所も周知していく。	小規模の保存食の場所だけでなく、会議の場などを通じて、他部署の備蓄保管場所を確認することができた。	藤城の防災訓練にも出てくださったら。	災害に対して、研修や訓練を継続し、職員全員で備えを行っていく。他部署の備蓄場所も周知し、藤城の家全体での連携も図っていく。